



2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月13日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ナガオカ
コード番号 6239 URL <https://www.nagaokajapan.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梅津 泰久
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 楯本 智也 TEL 06(6261)6600
四半期報告書提出予定日 2022年5月16日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年6月期第3四半期の連結業績（2021年7月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	4,490	△0.2	608	△2.2	713	0.5	497	2.6
2021年6月期第3四半期	4,499	△8.5	622	△28.7	710	△17.4	485	△21.2

(注) 包括利益 2022年6月期第3四半期 681百万円 (△3.3%) 2021年6月期第3四半期 704百万円 (32.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	70.61	—
2021年6月期第3四半期	69.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	6,823	4,547	66.6
2021年6月期	6,501	3,968	61.0

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 4,547百万円 2021年6月期 3,968百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2022年6月期	—	0.00	—		
2022年6月期（予想）				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年6月期の連結業績予想（2021年7月1日～2022年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,200	15.0	933	15.3	1,010	7.8	710	4.7	100.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年6月期3Q	7,078,400株	2021年6月期	7,078,400株
② 期末自己株式数	2022年6月期3Q	29,199株	2021年6月期	29,199株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年6月期3Q	7,049,201株	2021年6月期3Q	6,995,807株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、段階的な経済活動の再開により回復傾向にありますが、半導体不足、資源価格の高騰など不安定な状況が続いています。海外においても多くの国では、新型コロナウイルスに対する規制緩和が進み、経済活動の再開によって景気が回復してきておりますが、ロシア・ウクライナ情勢による地政学的リスクの発生により資源価格が高騰するなど先行き不透明な状況となりました。また、中国ではゼロコロナ政策による都市封鎖や活動制限の強化が実施されており、サプライチェーンへ大きな影響を与えております。

このような状況の下、当社グループでは、2022年6月期から2024年6月期までの3カ年を計画期間とする中期経営計画「FLIGHT PLAN: VISION 2024」を策定いたしました。この計画で掲げた①既存事業の深化・拡充、②戦略的パートナーとの連携、③新規市場参入について検討を進め、実行に移すことで持続可能な成長を目指してまいります。水関連事業では、国内の上水道や食品・農業に関連する分野の水処理を幅広く行い、海外においてはこれまで積み重ねてきた実績を基盤として、当社の「取水」「水処理」技術をモデル化し、展開することにより事業拡大を推し進め、エネルギー関連事業と並ぶ収益基盤にすることを目指しております。エネルギー関連事業では、安定的に収益を確保できる体制の構築が課題と認識しております。グループ生産体制の最適化の推進等によりコスト低減を図り、価格競争力を高め、受注機会の拡大と主力製品以外のマーケットの拡大、定期メンテナンスサービスの強化等を行い、体制の構築を目指しております。

当第3四半期連結累計期間につきましては、水関連事業では、海外での営業活動が積極的に行えない状況が続いておりますが、国内の営業活動に注力し、取水分野を中心に堅調に推移しております。エネルギー関連事業では、新たな受注獲得に向けて、中国を中心としながらも世界各地の新規プラント建設計画について継続的に情報収集に努め、受注機会を逸することがないよう取り組んでおります。また、資材価格の高騰、為替の変動、中国におけるサプライチェーンの混乱などの影響を慎重に検討しながら営業活動を進めております。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高4,490,915千円（前年同期比0.2%減）、営業利益608,497千円（前年同期比2.2%減）、経常利益713,673千円（前年同期比0.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益497,743千円（前年同期比2.6%増）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

セグメント別の状況は、以下のとおりです。

① 水関連事業

海外向けの販売は、ベトナムでは子会社であるNAGAOKA VIETNAM CO., LTD.を拠点に、マレーシアでは現地代理店を活用して、案件の掘り起こし・具体化を進めているものの、厳しい状況が続いております。一方、国内向けの販売は、複数件の水源地の改修工事が完了するなど、取水分野が堅調に推移しております。

これらの結果、売上高982,020千円（前年同期比33.0%増）、セグメント利益196,677千円（前年同期比217.4%増）となりました。

② エネルギー関連事業

世界経済はゆるやかな回復基調にありますが、欧米を中心として新規の石油精製・石油化学プラント建設については依然として鈍い状況が続いており、中国を中心に営業活動を進めた結果、2022年3月に既存プラント設備の取替需要について大口の受注獲得に至りました。製造面では、中国向けの大型案件の製造を大連子会社で進めており、当第3四半期連結累計期間の売上に寄与しております。

これらの結果、売上高3,508,894千円（前年同期比6.7%減）、セグメント利益817,083千円（前年同期比13.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は6,823,128千円となり、前連結会計年度末に比べ322,018千円増加しました。これは主に、その他流動資産が205,483千円減少した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が325,067千円、現金及び預金が218,569千円それぞれ増加したことによるものです。

負債合計は2,275,852千円となり、前連結会計年度末に比べ256,974千円減少しました。これは主に、短期借入金が増加した一方で、支払手形及び買掛金が427,183千円、その他流動負債が240,432千円それぞれ減少したことによるものです。

純資産合計は4,547,275千円となり、前連結会計年度末に比べ578,992千円増加しました。これは主に、配当金の支払105,738千円があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益497,743千円の計上により利益剰余金が395,303千円増加したこと、為替換算調整勘定が174,746千円増加したことによるものです。なお、収益認識会計基準等の適用により、利益剰余金の期首残高が3,298千円増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想は、2021年8月6日の「2021年6月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想から変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症等の影響によって、業績予想に修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,676,213	1,894,783
受取手形及び売掛金	2,001,234	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	2,326,302
商品及び製品	8,649	6,587
仕掛品	198,504	83,105
原材料及び貯蔵品	369,076	396,444
その他	406,255	200,771
貸倒引当金	△3,022	△3,516
流動資産合計	4,656,911	4,904,478
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	668,068	717,312
機械装置及び運搬具（純額）	236,796	247,898
リース資産（純額）	60,292	57,279
建設仮勘定	3,801	23,934
その他（純額）	80,348	68,834
有形固定資産合計	1,049,307	1,115,260
無形固定資産	336,274	344,497
投資その他の資産		
繰延税金資産	102,726	98,995
その他	355,889	359,896
投資その他の資産合計	458,616	458,892
固定資産合計	1,844,198	1,918,650
資産合計	6,501,110	6,823,128

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	660,914	233,731
短期借入金	514,915	859,600
1年内返済予定の長期借入金	63,000	184,000
未払法人税等	143,760	58,451
賞与引当金	—	52,032
役員賞与引当金	—	114,600
資産除去債務	1,828	—
その他	576,865	336,433
流動負債合計	1,961,283	1,838,848
固定負債		
長期借入金	207,600	44,600
違約金負担損失引当金	230,504	259,166
退職給付に係る負債	75,863	81,370
その他	57,575	51,867
固定負債合計	571,543	437,003
負債合計	2,532,827	2,275,852
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,253,241	1,253,241
資本剰余金	785,195	785,195
利益剰余金	1,760,833	2,156,137
自己株式	△20,106	△20,106
株主資本合計	3,779,164	4,174,468
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△6,424	2,517
為替換算調整勘定	195,542	370,289
その他の包括利益累計額合計	189,118	372,807
純資産合計	3,968,283	4,547,275
負債純資産合計	6,501,110	6,823,128

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
売上高	4,499,435	4,490,915
売上原価	2,929,628	2,796,622
売上総利益	1,569,807	1,694,292
販売費及び一般管理費	947,349	1,085,795
営業利益	622,458	608,497
営業外収益		
受取利息	6,060	8,499
為替差益	60,388	74,841
スクラップ売却益	17,482	27,894
補助金収入	11,571	12,929
その他	16,274	3,663
営業外収益合計	111,777	127,827
営業外費用		
支払利息	21,162	19,093
支払手数料	2,921	3,499
その他	93	58
営業外費用合計	24,177	22,651
経常利益	710,059	713,673
特別利益		
固定資産売却益	3,552	—
特別利益合計	3,552	—
特別損失		
固定資産除却損	83	1,988
特別損失合計	83	1,988
税金等調整前四半期純利益	713,528	711,685
法人税、住民税及び事業税	208,897	208,315
法人税等調整額	19,359	5,626
法人税等合計	228,256	213,941
四半期純利益	485,272	497,743
親会社株主に帰属する四半期純利益	485,272	497,743

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	485,272	497,743
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	64,732	8,941
為替換算調整勘定	154,386	174,746
その他の包括利益合計	219,119	183,688
四半期包括利益	704,391	681,432
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	704,391	681,432

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、工事契約に関して、従来は、工事の進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を適用し、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、一定の期間にわたって履行義務が充足される場合には、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗率は、工事原価総額に占める決算日までに発生した工事原価によって計算しております。また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,597千円減少し、売上原価は5,199千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ4,398千円減少し、法人税、住民税及び事業税は1,099千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は3,298千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エネルギー関連	水関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,761,074	738,361	4,499,435	—	4,499,435
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,761,074	738,361	4,499,435	—	4,499,435
セグメント利益	943,684	61,971	1,005,655	△383,197	622,458

(注) 1. セグメント利益の調整額△383,197千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に、各報告セグメントに帰属しない役員及び管理部門に係る人件費、経費等の一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エネルギー関連	水関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,508,894	982,020	4,490,915	—	4,490,915
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,508,894	982,020	4,490,915	—	4,490,915
セグメント利益	817,083	196,677	1,013,761	△405,263	608,497

(注) 1. セグメント利益の調整額△405,263千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に、各報告セグメントに帰属しない役員及び管理部門に係る人件費、経費等の一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「エネルギー関連」の売上高は9,597千円減少、セグメント利益は4,398千円減少しております。